



# 二十六聖人

令和2年6月号

(令和2年5月31日発行)

教会だより

2020.6 No. 326

カトリック二俣川教会 TEL 045-391-6296  
<http://www.futamatagawa-cc.com/>  
主任司祭：ヤコブ 姜 真 求 (カン ジング)

## 聖なるイエス様の御心

ある霧雨の夜、教会の玄関に立って、庭の聖母子像をじっと眺めながら、ロザリオを唱えていました。あれこれ、様々なことが頭に満ちていて、祈っているのかどうか、自分も全然気づかないままでした。その時、わたしの目に映った聖マリアと、その懷に抱えられているイエス様の姿は、とても懐かしい光景でしたが、一方、寂しい気持ちももたらしてくれました。「先が見えない今の状況。わたしの母は今どう過ごしているのか。」などの心配が、そういう気持ちにまで繋がったようです。霧雨にさらされている聖マリアとイエス様の姿から、わたしは子供の時の私の母の心を測ってみました。「貧しい家庭の母として5人の子供を育てることとは、何と大変だっただろう。」と。そういうわけかは分かりませんが、母はマリア像やロザリオを大事にしました。

さて、聖マリアも他国で過ごしたことがありました。エジプトのことでしたが、イエス様が生まれた途端、ヘロデの剣を逃れて、聖マリアはイエス様と共に聖ヨセフについてそこへ避難して過ごしたのです。その時、聖マリアはどんな心だったのでしょうか。言葉や考え方、生活の習慣など、すべてが異なっている状況で、しかも、いつまでだという確実なことも分からない日々の中で、聖マリアも色々な悩みや苦しみが大きかったでしょう。それは勿論、聖ヨセフも同様だったと思いますが、とにかく、その貧しい夫婦には赤ちゃんのイエス様がおられました。純真無垢なイエス様の小さな命の拍動が、その二人にとっては全ての労苦や苦しみ、悲しみ、寂しさ、疑いを乗り越える力であったことは間違いないと思います。

イエス様は神様の独り子としてすべてを存じておられました。人間の救いを望まれる神様の意向がかなえられるように、また、人間がその神様の救いの業に与えるようにするため自ら人となりました。その赤ちゃんのイエス様は母マリアの懷で、母の心臓の音を聞きながら、人間の心をも感じられたでしょう。そして、イエス様の小さな心臓の音から、マリアもヨセフも神様の愛と慈しみの御心を感じることができたと思います。まさにその心のやり取りは、二人が人生の様々な逆境を乗り越える真の力となったのではないのでしょうか。私たちは皆、赤ちゃんであった時があり、その時、周りの人々の愛の中で育ちながら、彼らに大きな力と慰め、喜びと平和を贈ってあげたでしょう。

6月はイエス様の聖なる御心の月で、その愛と慈しみの御心を黙想し、それを学ぶことが勧められますが、特に、みんなの赤ちゃんの心を改めて取り戻す月でもあると思います。どうか、愛深いイエス様の御心に近づくことができるよう、お祈りいたします。

主任司祭 ヤコブ 姜 真求

公開ミサが中止されてからの3ヶ月間、日本の国民はもちろん、二俣川の信徒の皆さまも3密を避け、自粛生活をがんばったお陰で、何とか先が見えてきたようです。今月号でも引き続き、数名の信徒の方々の声を皆さまにお届けいたします。どうぞ希望を持って歩めますように。

## ミサのない生活で見た世界

わたくしごとですが、本年3月末に勤務先との再雇用契約が満了しました。いまは失業中です。3月もまるまる在宅勤務だったので、3か月近く家に籠りきりです。いくつか趣味はもっていますが、流石に時間を持て余します。イベントは軒並み中止だしテレビはつまらないので、インターネットでユーチューブを見て過ごしていました。

これがなかなか興味深い。とくに、時事や政治に関するユーチューブ動画では、まったく同じ事柄を扱っているのに結論は正反対ということがよくあります。たとえば種苗法という植物の種や苗に関する法案について検索すると、農家を潰す悪法だと主張する人もいれば農家の永年の悲願だという人もいます。ちかごろ話題の公務員定年延長や改憲も同じです。

人間の考える真理や正義はしよせん立場やその時々事情に依存した相対的なものに過ぎないのでしょう。中世の魔女狩りは今から考えると狂気の沙汰です。しかし当時の異端審問官が強い信仰心と正義感そして高い教養を持っていたことは疑いようありません。そして、恐ろしいことにそれは現代にも当てはまります。

今回、中国湖北省武漢に端を発した新型コロナウイルスの蔓延は、私たちに二つの重要な課題を突きつけていると思います。一つはグローバル化を無条件に良しとすることに対する疑問であり、もう一つは中国という国家に対する懸念です。これらは政治的経済的に解決すべき課題であるとともに私たちの信仰とカトリック教会の将来に係る課題でもあるはずで

しかし、それに対する正しい答えをいま知ることはできそうにありません。それを知るのは100年後、1000年後かも知れません。いまは、私たちが手探りで探し出すであろう答えが、後の人々にとって中世の魔女狩りと同じくらいに愚かしく残酷でないことを願うばかりです。

神様、この新型コロナウイルスから世界を救ってください。また、私たちと私たちの指導者が与えられた課題に正しく答えられるように導いて下さい。

ヨハネ A. N.



## 私を感じた感謝

緊急事態宣言を受けて、3月からミサに与るために教会へ行くことがなくなりました。あたり前であった生活習慣が変化し、密閉、密集、密接に配慮し、感染させないように、感染しないように気をつける日々です。ニュースで国内の現状、世界の様子を見聞きすると心が痛みます。今は、早い終息を心から祈るばかりです。

先日、どうしても聖堂で祈りたいとの思いから、教会に出向きました。ロビーに置いてある「聖書と典礼」と「神父様の説教」を持ち、聖櫃の前で、み言葉をいただき、神父様の説教を1人で分かち合い、ロザリオを唱えました。その時感じた、高揚感、開放感、達成感は教会に来て本当に良かったと心から思え感謝しました。

その後も、何度か同じように祈り、同じような充足感を得られた事は感謝しかありません。

ミサは、いずれ再開されますので、焦燥感に駆られることはないのですが、日曜日に教会に行かない事が普通になってしまうという思いの変遷があり、「祈りなさい」との導きから教会へ招かれたのだと思います。回心することを忘れがちな私にも主は共にいて下さいました。

そして共同体の兄弟たちから、様々なメッセージをいただきます。それは、ラインであったり、メールであったり、電話であったり、教会HPであったりと様々ですが、全てに感謝しかありません。私を力付け、気づきを与えてくれるからです。

「ミサ」は最も美しい祈りですと神父様からお伺いしてから、確かにその通りだと気づきがありました。それからはその思いでミサを捧げています。最も美しい祈りである「ミサ」を皆さんと捧げることが早く訪れることを願いつつ。

マチアス K. A.

---

## 「オモイサマタゲノアルトキハ…」

大昔、高校1年の復活祭に受洗しました。厳しき指導司祭のドイツ人神父様に恐る恐る、日曜日に教会に行けない時はどうしたら良いか尋ねました。返事はドイツ語訛りの日本語で、「オモイサマタゲノアルトキハカマイマセン」でした。それ以来、「オモイサマタゲ（重い妨げ）」を口実に、安易に教会を休むことがしばしばあったように思います。

新型コロナウイルス嵐のため、公開ミサの中止、延長、再延長が長期間続いていますので、それほど褒められた信者でない私でも、流石にミサに与れない寂しさをひしひしと感じています。知らず知らずのうちに、日曜日に教会に行くことが、生活パターンの中心になっていたようです。

ミサの中止、再三の期間延長等を、信徒の皆さんにいち早くお知らせするために、地区連絡室スタッフとして、13の地区の世話人の方に、連絡員の皆さんが担当する地区の信徒の方々へ知らせてくださるようお願いしました。

知らせを受けた信徒の中には、メールやFAXによる「教会からの緊急連絡」ですでに承知されている方もおられ、連絡員の方には余分なお手間をおかけしたようです。その後「緊急連絡網リスト」に基づき、地区ごとに登録者のお名前をお伝えしましたので、重複してお知らせすることはなくなったと思います。

「教会からの緊急連絡」は、これまでは訃報などが主になっておりますが、今後はいろいろな情報発信も期待されますので、メールアドレスやFAX番号を届け出ていない方は、この際事務所に登録されることをお勧めします。

5月末発行予定の「二十六聖人6月号」が出る頃には、ミサ再開が近付いていることを期待し、ひたすら祈っています。

ヤコブ K. M.

---

## 近況

私たちの教会でごミサが非公開ミサの状態になってからというもの毎週、インターネットを通じてごミサに与っています。画面の中の方々と一緒に聖歌を歌い、霊的にご聖体拝領をいただき、霊的に派遣の祝福を受けて終わります。未信者の家族も最近は集中して画面と向かっている私の時間を尊重してくれるようになりました。

画面越しのごミサに与りながらいつもイメージするのは、教皇様来日ごミサで圧倒的な人数の信者の方々とご一緒に与った体験です。視界いっぱいの人数の多さからくる熱気と連帯感！イエスは「わたしを見たから信じたのか。見ないのに信じる人は幸いである」とおっしゃられました。信仰が足りない私はやはりあの日、連帯する兄弟姉妹の姿を見たことによってご一緒にインターネットでのごミサに共に与る、目に目えない信仰を同じくする方々との絆をはっきり思い浮かべることができるように思います。

毎日私たち共同体のためにごミサを捧げくださっている神父様に感謝致します。早くご聖堂に集まって共同体の皆様とごミサに与りたいです。その日まで、インターネットを通じてごミサに与れる環境と発信してくださる方に感謝しながら非公開ごミサに引き続き与っていきます。目に見えない繋がりを共有しながら。

マルタ K. A.



## 公開ミサ中止から3カ月経ちました

私は2月末から約2カ月間、娘の出産の手伝いでアメリカに居ました。出発当日に、コロナウィルス感染予防策として、ミサをはじめ教会での活動自粛という連絡を受けました。それでも、当時は4月に帰国する頃には収束し、教会のミサに与れないのは、アメリカに居る間だけだろうと、甘い考えでおりました。

アメリカでの生活が始まり、2週間ほど経った時に、外出禁止令が発令され、行動が限られる生活となりました。インターネットで知る日本は混乱しているようで、不安な日々を過ごしておりました。

そんな中、教会の方々が送って下さる Web ミサの情報や祈りの動画が、私の不安な気持ちを随分と和らげてくれました。

一番印象深かったのは、ローマで教皇様がお一人でなさるミサに与かれた事です。パンデミックの最中での異例の祈りでした。時差があり、最初の回は与れませんでした。二回目はその時間に与れ、私の大きな喜びになりました。

ロザリオの祈りを日本の信徒の方々と同じ時間に唱えた事も、今の時代だからこそ実現できたのだと深く感謝します。

報道の内容は、殆どがコロナ関連で、不安な日々が続く中、信徒の皆さんから送られてくる数々の動画や聖書の言葉にどれほど励まされた事でしょう。離れていても、心で繋がっている事を実感した2カ月でした。

コロナウィルスにより、多くの犠牲がありました。今もなお、尽力下さっている医療従事者の方々。

教会の活動も、見直さなければならぬ事があるでしょう。その中で変わらないのは、私達の祈りだと思います。祈りの力を信じて、私たちはこれからもキリスト者として歩いていきましょう。

マリア テレジア K. A.

---

### 1 日もはやいコロナウィルスの収束を!!

洗礼を受けてから60年余、今回の新型コロナウイルスの発生で御ミサが中止されて3か月が過ぎようとしています。これは初めての経験で戸惑いを感じる毎日です。はやく、また日曜日のミサが行われ、御聖体を拝領出来る日が来ることを待ち望んでいます。

気がつくとも曜日のミサが無くなったことで、平日と日曜日の区別がつかなくなったことから、毎日が平日の連続のような変な感覚が発生し、減り張りがつかない日々を過ごしています。

コロナウィルスの収束は予測が難しく、しかも発生してから陽性になるまでに2週間近くかかることから、いつ発生したのかが気づきにくく、外出自粛に努めざるを得ない状況で、結果、高齢者としては、筋肉の劣化が起こる要因ともなっています。

一日もはやいコロナウィルスが収束し、日曜日のミサも復活し、神様を賛美するとともに、信者同士の楽しい語らいも戻ってくることを切望する毎日です。

ヨハネ ヴィアンネ K. K.

## 静けき夜に思う事

世界に静寂が広がり、見えない何かに人々はこれ程までに恐れ身を潜める事になろうとは、多くの人が想像できなかった事と思います。高々、RNA とタンパク質の構成物に人々の往来を止め、様々な経済文化活動は縮小を余儀なくされ、2000 年来の記念碑的な祭儀さえも止めてしまうことになろうとは。

私はこの二俣川教会にはこの 20 年前に籍を移しました。知り合いもおらず、家族も未信者でありましたので、共同体の皆様にはあまり話す機会もありませんでしたが、少し前から親しくして頂き、共同体での少々の役割を頂きました。お手伝いする事も楽しくなる毎日曜日の集いが皆様と開けない事を残念に思っております。

一方で若干の社会的責任を背負い、地を這いながら生活の糧のために労働に勤しむ日々は賑やか以上に騒々しく、必要以上に日常的でしたが、社会的距離間やら自粛やらで（感染拡大を抑える重要な手段ではありますが）、静かに自らを自らの内側へ落とし込む機会となったことも事実です。

自らの生き方について内省し、祈りを通して自らがただ一人で主の前に立つ実存者としての再認識。ろうそくも聖歌もパンも何も無く、心のうちでイエスの言葉を聞き、主と自らに語りかける。忙しく形式的な音の羅列に陥った祈りという言葉ではなく、深く黙想する。

多くの方々が厳しい状況に立たされていますが、何か忙しい日常で忘れていたものを思い起こさせる試練であったかもしれません。現在、感染拡大は終息に向かい、姜神父と教会委員会の皆様の努力でミサの再開へと進みそうです。姜神父様の我々に対する思いを感謝し、一日も早いウィルスの完全終息と再び皆様に元気で御会いできる事をお祈りしております。

ヨゼフ H. K.

---

## 自転車

新型コロナウイルスを人ごとのように考えていたのがついこの間のような気がするものの、本格的な外出自粛が始まり、すでに二か月になる。友人と二人で酒を飲むぐらいはいいだろう、一人でなら電車に乗って多少遠くへ出かけても構わないだろう、などと言い出すたびに家族に止められた。教会だけではなく、参加していたいくつかの定期的な集まりも皆休止になってしまった。この機会を生かそうと積んだままの本を手に取り読み始めたものの、やっと訪れた春の陽気の中、家に閉じこもっているのは辛い。

10 年ほど前からサイクリングを始めた。自転車はやがて肩に担げる軽い折畳みになり、電車やバスを使って遠出をするようになった。大きな川に沿って長い距離を走ることもあるが、初めての街を、寄り道を繰り返しながら、一人で走り廻るのが好きだ。行く先々で見知らぬ人たちと交わす屈託の無い会話も楽しい。昔から誰も知る人のいない街や地方や国を一人で旅することが好きで、気分が高揚した。生来の自分の性格を改めて自覚している。仕事を離れた今、もう努力をしてまで新しい人の輪に加わる気はない。

コロナウイルスの外出自粛のなか、電車に乗るのは控えて、自宅から走り始め自宅に帰るサイクリングを繰り返しているが、これが案外楽しい。我が街も捨てたものではなく、境川、和



泉川、阿久和川、柏尾川などなど、丹念に走りそして歩いてみれば、見どころはまだまだ沢山あるし、田園風景すら楽しむことができる。見過ごされがちな道端や境内の案内板などを丹念に読むことで得られる新しい知識も嬉しい。

初めての街で教会を見つけると時間の許す限り寄ることにしている。人気のない聖堂に座って過ごす静かな時間は好きな旅の一部を占めている。毎週教会でミサに与り、見知った人たちと顔を合わせ、たとえ挨拶だけであっても言葉を交わすことが、自分の生活の中に占める大きな意味に、日曜日に教会へ行けなくなった今、初めて気が付いた。

マテオ M. T.

\*\*\*\*\*

## 教会ホームページプロジェクト あなたのちからを貸してください！

教会委員会は昨年 11 月に、教会ホームページプロジェクトの発足を策定しました。現在の教会ホームページを全面的に見直し、新しい教会ホームページを構築するための教会委員会主導によるプロジェクトです。

このプロジェクトを推進するために、以下の要件でプロジェクトのチームメンバーを募集いたします。

1. ホームページ作成経験者
2. ホームページの専門的な技術・知識を有する方（WEB デザイナーなど）
3. 専門的な技術・知識がなくても、ホームページ作成に関心のある方

ご応募は教会事務所の下記のメールアドレスへ。

タイトルは「プロジェクトチーム応募」としてください。

**office(アットマーク)futamatagawa-cc.com** (アットマーク) :@



「教会ホームページプロジェクトチームの応募」と明記の上、お名前、地区名、簡単なホームページ作成経験と応募動機についてお書き添えください。

現在、コロナウィルス対応で教会活動が制限されていますので、応募締切日の設定をしておりませんが、当面の間、常時、応募を受け付けております。

ご応募のほどよろしくお願い申し上げます。

教会委員会

## 教会ホームページの「共同体コンテンツ」をご覧になりたい方へ パソコン・スマホなどで閲覧する手順のご説明

(共同体コンテンツ：「二十六聖人」,「信徒フォトアルバム」)

- ① 教会HPを開く（「カトリック二俣川教会」で検索）
- ② メインメニューの「共同体向け」をクリック  
(スマホは左上などに縦置バーで現れる場合がある)
- ③ 指示通りに画面を進めると、パスワード入力が出てくる。  
パスワード：XXXXX9999（半角英数字小文字9桁）  
XXXXX ⇒ マリア様のローマ字表記（英字小文字5桁）  
9999 ⇒ 当教会の守護聖人にまつわる数字2桁+2桁（計4桁）  
(下2桁は一定期間を経ると更新されます。現在の数字は教会ロビーの掲示をご覧ください。または広報委員か事務所にお尋ね下さい)
- ④ 「二十六聖人」の場合は「広報誌バックナンバー」をクリック  
→ 教会日より「二十六聖人」  
→ 発行年度を選び、閲覧したい月度の「二十六聖人」をクリック
- ⑤ 写真・動画の場合は「信徒フォトアルバム」をクリック  
→ 閲覧したいタイトルをクリック（最初8桁：撮影年月日）  
→ 写真が展開され、閲覧ができます。

広報委員会

**【編集後記】** 皆さま、お疲れ様です。この長い自粛生活の期間に少しでも分かち合いが出来るようにと教会月刊誌『二十六聖人』に信徒の思いを寄稿していただきました。寄稿依頼は公募が一番良いのですが、現状手間や費用がかかり、ままならない所です。寄稿依頼するにあたり、一番強く感じた事は、常日頃に会話や活動などで、もっと多くの人と接点を持つておくべきであったと言う事です。活動報告であれば事実関係もあり、寄稿して頂き易いのですが、自分の思いを書かれると言うことは、それ相当のエネルギーが必要で、平たくメールのみで依頼するだけでは寄稿に至らない所もあります。やはり、常日頃多くの信徒と接点を持ち、義理と人情を含めて、お願いするのが寄稿に繋がっていくかと・・・。  
六月中頃には公開ミサも再開されるので、その時はまた、信徒の皆さまの気持ちを『二十六聖人』に公募と口頭でお願いいたしますので、是非、分かち合いに参加ください。(S. W. 記)